

## 会 議 録

会 議 名 称	第1回 自立支援センター設置に関する検討委員会
日 時	平成16年5月28日(金)午後4時30分~6時30分
会 場	区役所中棟4階 第一委員会室
出 席 者	<p>委 員            山田知子委員、柴田純一委員、高橋新一郎委員、武田富乃委員、            夏目政之委員、鈴木定雄委員、内田寿子委員、都築准子委員、            小林幸男委員、小林英雄委員、菊池律委員</p> <p>事務局            保健福祉部管理課長、計画推進担当副参事、西福祉事務所長、            企画課企画調整担当係長、管理課路上生活者対策担当係長、            東福祉事務所保護第一係長</p> <p>関係職員            東福祉事務所長、南福祉事務所長、福祉局保護課自立支援担当係長</p>
配 布 資 料	<p>自立支援センター設置に関する検討委員会設置要綱</p> <p>資料1-1 路上生活者の現状について</p> <p>資料1-2 都区共同の路上生活者対策事業の概要について</p> <p>資料1-3 自立支援センターの概要について</p> <p>資料1-4 杉並区の路上生活者対策について</p> <p>資料1-5 委員会の進め方と今後のスケジュール</p> <p>参考資料</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ホームレスの実態に関する全国調査(東京23区の生活実態調査結果)平成15年3月</li> <li>2 東京都と23区の路上生活者対策の経緯</li> <li>3 都区協定に基づく「路上生活者対策事業実施大綱」平成13年8月</li> <li>4 首都東京における路上生活者対策に関する要望書」平成13年9月</li> <li>5 都区共同の一貫した自立支援システムを構築</li> </ol>
議 事 等 ( 要 旨 )	
<p>委員委嘱            助役あいさつ            設置要綱説明            委員・事務局紹介            委員長あいさつ</p> <p>《議 事》</p>	
1. 路上生活者の現状について	

事務局	資料1-1 及び参考資料1 について説明
委員(補足説明)	路上生活者は、労働市場からこぼれ落ちてしまった人たちで、建設作業など保障の薄い仕事についていた人が多い。また、最近では、リストラされたサラリーマンや、大学を出てからフリーターを経て路上生活になるという人もいて、昔とは状況が変わってきている面がある。
委員	この施設は、他区の路上生活者も考慮して規模を考えるのか。
事務局	杉並に設置する自立支援センターは、第4ブロックに所属する5区の路上生活者が対象になる。
2. 都区共同の路上生活者対策事業の概要について 3. 自立支援センターの概要について	
事務局	資料1-2、1-3 について説明
委員(補足説明)	<p>施設の設置に反対している住民が一番疑問に思うのは「なぜここに作るのか」ということ。路上生活者が多い区は、比較的理解が得られやすいが、少ない区の住民にとっては理解しにくいかもしれない。</p> <p>路上生活者が多い区にしても、そのほとんどは区外、都外からの流入者であり、その区から追い出しても周辺の区に散るだけで何の解決にもならない。そこで、都と23区が協定を結んで共同で自立支援事業に取り組むことになった。</p> <p>大きな公園などでブルーテントを張って生活している人は、なかなか施設に入ってくれない人が多い。そこで、現在、低家賃住宅を提供して公園生活から自立してもらう事業を都と23区で協議している。</p>
委員	墨田公園で、路上生活者に区が退去を迫った件だが、職員は自立支援制度を説明していたのだろうか。
委員	再三自立支援の説明をしたが乗ってこないという状況があったようだが、行き場がない状況で退去させても解決にならない。現在、都と23区で協議している地域生活移行支援事業がスタートすれば、このようなケースへの対応が可能になると思う。
委員	川崎市では、市と地域住民と路上生活者も参加して施設の運営について協議するという新しいシステムが始まったようだが、この方式は東京都でもできるのか。
委員	川崎市の施設は、自立支援センターとは性格がかなり違うが、住民と協議会を設ける方法は都でも可能。今回の杉並のように、施設を設置する前に検討委員会を設けるという取組みは初めての試みで、有効な取組みと考えている。
委員	近くの公園に路上生活者が住み着いたことがある。いろいろ事情があったようだが、話をしたら理解して故郷に帰った。また、別なケースでも、私達と区の職員とで説得したら実家に帰っていった。話してみれば意外と素直に応じてくれるし、我々の努力も必要だと感じた。

4. 杉並区の路上生活者対策について	
事務局	資料1-4 について説明
委員	せっきゃく施設に入ったのにまた路上に戻ってしまうケースはあるか。
事務局	8割の人が一度は就職するが、就労自立して退所する人は51%という状況である。自立できなかった人は、半福祉半就労で生活しているか、路上に戻ってしまったケースも考えられる。
委員	路上生活者を公園で見かけることはあるが、不審者としか見ていなかったし、その人の人生について想像することもなかった。今、路上生活者を説得し、家族の元に帰してあげたという話を聞いて大変感動した。  高校生が、路上生活者を襲撃したりする事件もある。センターができることで、みんなが考えるきっかけになればいいと思う。今まで何を言ってあげたらいいかも分からなかったが、みんなが理解していれば声もかけやすくなるのではないかな。
委員	建設現場などで働いていた人が多いようだが、景気のいいときは雑用的な仕事で雇われていた人が、不景気になると真っ先に辞めさせられてしまう。このことが、路上生活者が増える一番大きな要因になっている。  どんなに真面目な人でも、無職ではアパートも借りられない。まずこうした施設で仕事を見つけることが自立につながっていくのではないかな。
委員	学校付近の公園の路上生活者について相談があり、話を聞いてみたが、古本を集めて1日、千円か2千円くらいになるから十分生活できるそうで、嫌な思いをして施設に入る気はないといっていた。そういう生き方もあるのだろうが、苦情があるので福祉事務所と一緒に対応した。
委員	以前住んでいた川崎市では、子どもが追いかけられたという話があって学校で問題になったことがあった。小さい子は恐い思いをすることもあると思う。  施設をつくることでトラブルになることが多いようだが、最初のボタンのかけ違いというか、ちょっとした行き違いでこじれていくような気がする。
委員	実際には、路上生活者が人を襲うことより、襲われることの方が多いが、路上生活者は、「きたない、くさい、あぶない」という先入観があってなかなか受け入れられない。何回も説明して、施設を見てもらって、こんなに頑張っているんだというところを見てもらうことで、反対していた人の気持ちも変化してくる。
5. 委員会の進め方と今後のスケジュール	
事務局	資料1-5、今後の進め方、日程について説明 委員了承
	閉会